

# 会議録

## 1 会議の名称

第3回 犬山市かわまちづくり推進協議会

## 2 開催日時

令和7年3月27日（木）午前10時00分から正午まで

## 3 開催場所

市役所2階205会議室

## 4 出席した者の氏名

- (1) 構 成 員 岡田和明、阿部充、梅村治男、板津雅史、奥村好樹、松田昇平、  
日比野清正、長瀬由武、安藤英明、丸山和成（順不同・敬称略）
- (2) オブザーバー 井川陽二
- (3) 事 務 局 新原経済環境部長、小池観光課長、桃原観光課長補佐、  
小澤観光課主査補
- (4) 関 係 課 高橋秀成整備課長、又部和也整備課主査

## 5 議題

- (1) 開会
- (2) 議事
  - 報告1 犬山市における取組状況について
    - ・内田地区の取組み
    - ・栗栖地区の取組み
  - 協議1 犬山市かわまちづくり計画について
- (3) その他
- (4) 閉会

## 6 傍聴人

0名

**【配付資料】**

- 資料 1 委員名簿 (R7. 3. 27 時点)
- 資料 2 犬山市かわまちづくり計画 策定スケジュール
- 資料 3 内田地区の取組み
- 資料 4 栗栖地区の取組み (当日配付資料)
- 資料 5 第 2 回犬山市かわまちづくり推進協議会 委員意見対応表
- 資料 6 犬山市かわまちづくり計画案 (R7. 3. 27 時点)
- 資料 7 犬山市かわまちづくり計画 パブリックコメント実施案

## 7 内容

事務局

皆様、定刻となりましたが、朝市組合の日比野委員が10分ほど遅れるということです。少し遅れるとお聞きしております。先に始めてくださいとのことでしたので、定刻となりましたので始めさせていただきます。

改めまして、おはようございます。

本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより第3回犬山市かわまちづくり推進協議会を始めさせていただきます。

犬山市では、木曽川河畔に住む人も訪れる人も憩い、にぎわい、活躍できる今よりもさらにすばらしい河川空間となることを目指しております。こうした川とまちがつながるすばらしい場づくりをさらに推し進めるため、犬山市かわまちづくり計画を策定することとしており、この協議会は河畔に関わる皆様方から貴重な御意見、御助言、御提言を頂戴することで計画の精度を高め、充実させることを目的としております。

長らくお世話になっておりますが、本日が3回目、最終回となりますので、よろしくお願いいたします。

まずは事務局の紹介をいたします。

委員の皆様から後方中央が経済環境部長、新原でございます。

一言お願いいたします。

新原経済環境部長

皆様、おはようございます。

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

私、部長として1年やってきましたけど、この3月で退職することになりました。このかわまちづくりについては、私も観光課長の頃から本当に長年の夢で、夢のあるわくわくするような空間づくりというのがやっと徐々に動き始めたなという実感をしております。

これからますます犬山の魅力を高めるために、こういった取組というのは皆さんの御意見も当然必要です。いろんな国や県の支援も必要です。なので、新たな夢をというか魅力のある犬山になるように、また今日も御意見をいただきたいと思いますので、今日はよろしくお願いいたします。

事務局

新原部長ですが、大変申し訳ありません。他の会議がありまして、申し訳ありませんが、ここで離席させていただきます。

続きまして、観光課課長補佐の桃原でございます。

桃原です。よろしくお願いいたします。

担当、小澤でございます。

小澤です。よろしくお願いします。

続いて、整備課課長高橋でございます。

高橋です。よろしくお願いします。

同じく整備課主査、又部でございます。

よろしくお願いします。

最後ですが、観光課課長、小池でございます。よろしくお願いします。

本会議には、本市のかわまちづくりに欠かせない皆様に委員として御出席いただいております。お手元の配席表及び委員名簿を御参照いただけたらと思います。

本日は、総数10名中全員の皆様に御出席をいただいておりますので、委員の過半数の出席がございます。会議は成立していることを報告いたします。

会議ですが、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、お昼の12時までには終了させていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

また、本日の会議は公開で開催されますので、傍聴人の参加も認めておりますが、現在のところ傍聴人はいらっしゃいません。

会議の内容については、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめ御了承ください。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

まずは、事前配付させていただいた資料から御確認ください。

#### (資料確認)

あわせて、また後ほど御案内いただけるかと思いますが、岡田会長のほうから名古屋経済大学さんの地域の元気というリーフレットと、あと犬山学ですね。非常に内容が充実している大変いいものになっておりますが、机上に置かせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきます。

まず初めに、会長の岡田様より御挨拶を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

岡田会長

おはようございます。春霞（はるがすみ）なんて言っているうちはよかったんですけども、その原因を知るともやもやとしていまして、僕も一昨日から目が粘っこくなっちゃうという感じで、今日も目薬を差しながらの進行になりますけど、よろしくお願いいいたします。一方で、桜の開花宣言があちこちから聞こえてくるようになりました。栗栖の桜はどうですか。まだ早いんですか。

丸山委員

咲き始めています。

岡田会長

今週末ぐらいは栗栖の夜桜を見て、その後、内田の竹あかりのプロジェクト、アートを見るのを楽しみにしたいなと思っております。

先ほど小池課長からも話がありましたけれども、今回で今年度最後の協議会ということでございます。前回皆さんから御意見をいただいた案が今日お手元にあるかと思っておりますけれども、さらにこれをよくするために、今日も皆さんからいろんな御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

それから、先ほど紹介いただきましたように、地域連携センターから出している機関誌と、それから同じく犬山の研究センターのほうから出している犬山学という資料を置かせていただきました。特に犬山学研究センターのほうは、今年、金森長近が生誕500年で、金森長近が大学のある山で、小牧・長久手の戦いのときに砦を守っていたということもあって力を入れて今年は展開させていただきました。三菱みらい財団というところから外部資金をいただき、展示会なんかも開かせていただいたということです。協議会の方々、サロンなんかにも御出席いただければと思います。

挨拶というか、大学の宣伝になってしまって申し訳ありませんが、今日もよろしくお願いいいたします。

事務局

ありがとうございました。

それでは、以降の進行を協議会要綱に従い、岡田会長にお願いいいたします。よろしくお願いいいたします。

岡田会長

それでは、会議のほうに入らせていただきます。

次第にありますように、2. 議事にある報告1について事務局より説明をお

事務局	<p>願います。</p> <p>(資料説明)</p>
岡田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様から、聞いておきたいことが何かありましたら。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、先に進めさせていただきます。</p> <p>それでは、続いて協議1ということでございます。事務局より説明のほうをよろしくお願いいたしますと思います。</p>
事務局	<p>(資料説明)</p>
岡田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今、事務局から説明がありましたかわまちづくり計画の素案について、委員の皆様からアドバイスや意見、提案等を頂戴したいと思います。御発言、いかがでしょうか。</p> <p>長瀬委員、願います。</p>
長瀬委員	<p>桃太郎発展会の長瀬と申しますけど、既存の栗栖園地が、今、イノシシの被害ですごいことになっています。例年1～2回は大水が出て園地まで水が浸かってしまい、去年は大したことなかったのですが今年どうかなあと。今年がもし例年ぐらいの大水が出た場合、既存の昔からある園地が芝を持っていかれてしまう。四、五十年前に一回ありまして、ごっそり持っていかれて、それで国か何かでダンプカー600台か800台の土を入れて芝を再生したということがあります。今回第3回目の芝張りであそこを何とか処理できるかなと思ったら、ちょっと予算的には無理ということで、次回4回目に何か書いてありますけど、それもそこを含むのか、そこが増水で持っていかれたら今の金額じゃ話にならんぐらいの金額になってしまうので、できたら早めに処理をしてほしいなと思いました。以上です。</p>
岡田会長	<p>事務局からいいですか。</p>
事務局	<p>長瀬委員、ありがとうございます。</p> <p>栗栖園地というのは、今御紹介いただいたとおり、増水との戦いですね。長瀬委員には釈迦に説法ですけど、私は7年ぐらいこの観光の部署におりまして、それまで企画でも関わっていますが、これまで何度となく増水を見て、こ</p>

それは非常にまずいなと思いながら、それで引いてからまた補修しての繰り返しと。あれは何年前でしたかね。四、五年前に過去2番目の水位になったことがあって、そのときも本当にどっぷり水没しちゃって、斜面の結構高いところまで水位が上がったことがあって、あのとき、既存の園地のほうは一部ダメージを受けましたが、西側にブッシュが結構生育していることもあって残存する環境になっているというのが分かりました。

今、南側に延ばしていつているところの川場というのは、まだブッシュがあまり育ってないので、今後そういった防波堤ではないんですけど、そういったような仕組みになっていくとよりいいのかなというのが一つと、あと、この芝生の広場の拡張というのは、愛知県の補助金を頂いて全額補助を受けて、お金をいうと300万ぐらいの予算を毎回申請して進めているので、どうしても施工の範囲が少しずつなんです。令和6年度には全部終わり切らず、恐らくあと2年ぐらいですかね、令和7、8年ぐらいで全部芝生で埋まったとなるかなと思いますので。また増水して引いて、あるいはイノシシでぼこっとなってしまうたら、それを直しというのを諦めずに対処していくと思っております。その中でブッシュを広げたり、より災害に強い園地にしていくというのは皆さんと一緒にまた考えて進めたいと思っていますので、よろしくお願いします。以上です。

岡田会長

長瀬委員、どうぞ。

長瀬委員

イノシシの件ですけど、桃太郎発展会としては、イノシシが実際どこから河原へ下りていくかということでモニターをつけて検証したんですけど、はっきり分からないと、どこから下りていくか。その下りていく場所が分かれば、そこへ杭と竹で柵を作ろうかというふうに考えていますけど、まだはっきりどこかというのは分かりません。

ただ、言いましたけどイノシシがすごい量で、ひどい状態というのが分かるんですけど、本当に大水が出たら心配でたまらないんですよ。それだけ何とかやってもらえかなと思っています。以上です。

岡田会長

事務局から、どうぞ。

事務局

ありがとうございます。全く同じ思いです。

でも、イノシシの経路というのは非常に重要で、なかなか難しいみたいなことを聞きましたが。あと、電柵を張り巡らしてはどうだというアイデアも聞いたんですけど、なかなか現実的じゃないので、できることを進めていくしかない

いのかなというふうに思います。なので、いちごっこ的な部分もありますけど、イノシシにやられたら直して、引き続き侵入経路を探ったり工夫しながら一緒に進めていきたいと思いますので、また継続してよろしくお願いします。以上です。

岡田会長

丸山委員、お願いします。

丸山委員

お願いします。

イノシシ関連ですけど、地元の猟友会の人情報だと、現在、禁漁区ですけど、鉄砲が撃てるようにどうもなるかもしれない。これはどこが決めるんですか、それは知りませんが。区長さん、鉄砲を撃てるようにしたいけど、いいかと。僕が決めるわけじゃないけど、少しでも減らす向でできるといいですね。ただし、歩行者やいろんな人が通る道があるので、その辺だけ注意して回覧板を回すなり、今週は撃つよとか、その辺どういう情報が今後出てくるか分かりませんが、そんな話を聞いております。

別件ですが、33ページの美しい展開エリアの地図ですね。自転車・舟運による回遊性向上・広域連携ということで赤い線がずっとできております。23日に区の総会が行われましたが、一番狭いところは昭和天皇がここまで来たという碑がありまして、名古屋水道から、あの辺りからのところが何とかならないかという声が出ました。これは犬山市のものではないので、市経由で県に書類は出していますが、一度、一宮の建設事務所へ私ども栗栖の役員が出ていって、写真をつけて一度要望に行かなきゃ、この計画に関わる道です。それで、一宮建設事務所が、このプランのこの冊子を持っていますか。例えば、これを市の担当者と一緒に、こういうことを進めているので、ぜひとも県道を拡幅して事故を防いで、自転車が安心して通れるように、あるいは遊歩道ができるようにというようなことを一緒にこの冊子を持ちながら説明していくのも一案かなと思っております。

それから、42ページです。きちっといろいろ分けていただいて、ありがとうございます。

現状を2つ追加します。これを指定区域にするか否かは別ですが、現実、野外活動センターエリアという文字のちょっと左上に、これは栗栖川なんですけど、お宮のちょっと上流に空き地が、白い部分がありますね。ここがやんちゃ村広場なんです。私どもが年に数回芝生の草刈りをしている場所で、実はミラマチ栗栖の歩行者が中心になって、ここで子供キャンプをやって川遊びを夏休みにやっています。そこで花火大会もやったりして、結構、シジミを捕まえたり小魚を捕まえたりする場所ですので、実はそういう川遊びができる場所で



もあります。

もう一つ、野外活動センター周辺の枠です。そこに自然体験活動の実施（市民・市民団体）と書いてありますが、グラウンドゴルフ場が大変人気です。これは栗栖の人よりも、市外、あるいは市内からここを利用してグラウンドゴルフをやる人が多いので、実は、高齢者が多いですけど、グラウンドゴルフは大変盛んに行われていますので、そういう現状も加えていただいてもいいのかなあと思っております。

最後にもう一つ、これは市の事業でも県の事業でもございませんが、来年の2月中旬にトレイルランニングを栗栖地区でやりたいという申出がございました。昨年までは八曾キャンプ場の広場を拠点にしてトレイルランニングをやっておったようですが、八曾キャンプ場が経営破綻して閉鎖するということなんで、栗栖の景観を生かしたトレイルランニングをやりたいという申出であります。これは大変きちっとした全国的な組織で、いいふうに栗栖の自然を満喫していただけるようなチャンスにもなるなあと思っておりますので、参考に報告をいたします。以上です。

岡田会長

ありがとうございます。

じゃあ、最初のいつ頃オープンになるかとか、その辺のお話ですね。

事務局

丸山委員、ありがとうございます。

まず、この冊子については、今はまだこの協議会で皆さんから意見をいただいています、この後、冒頭のスケジュールで御案内したとおり、木曾上さんともまた相談をさせていただきながら、6月頃に国へ申請、8月頃に登録というのを目指しています。会議資料はホームページで随時公表していますので、どなたでも御覧いただくことはできますが、最終確定版というのは早くても6月以降、国からの修正とかが、仕組みが私も全て理解していませんので、登録となったものを最終的に皆さんに見ていただくのは8月ぐらいかなとは思っています。

その中で、先ほど県道栗栖犬山線の危険度についてのお話だと思います。これまでの会議で何度となく、これは非常に危険な場所だということでお話を、危険なエリアだということの問題提起を複数の方からいただいております、このかわまちづくり計画自体は木曾川河川敷をメインとした計画なので、直接県道についての改修というのをこの計画でやっていきますよということを書くものではないので、それは前回からお話ししているとおりで、そこはまたひとつ御理解をいただきたいのですが、とはいえかわまちというのは川の中だけで完結するものではなくて、町側、道路も含めた様々な施設、公共施設

も民間の施設も含めて、それも含めてかわまち計画なので、犬山市側のつくるかわまち計画の中で、そういった部分の危機意識というのは大事にしたいと。

先ほどお話の中で、この冊子自体はまだ一宮建設事務所の方は御存じではないですから、御提案いただいたように、こういったかわまちづくりの計画をつくっているので、ぜひ県道の改修についてもよろしく願いますという要望を観光サイドからも一緒に行くというのは当然させていただくことはできますので、とにかくありとあらゆる要望をしていくというのは大事と思っています。非常に厳しい、難しいというのは前々から聞いておりますし、なかなか困難なものも理解しています。ただ、声を届けるというのは、その時代の我々であったり区長さんであったりのやるべきことなのかなと思いますので、そこはこの計画をつくっている主体の観光サイドとして要望に一緒に行くというのは、幾らでもというに変ですけど、御一緒させていただきますので、よろしくお願いいたします。

あと、やんちゃ村やトレランという山側の活用というのも、これはかわまちづくり計画の木曽川河川の話ではありませんが、我々がこのエリアのまちづくりを進めていくということで、一つのキーワードとしてプロットすることは問題ないかなと思いますので、その辺りはまた工夫して進めてまいります。ありがとうございました。

岡田会長

今のやんちゃ村とか、その辺のエリアはどう考えるかという話もありますよね。

事務局

なので、この中で例えば栗栖だと桃太郎神社周辺というのは実際には河川敷じゃなくて名鉄さんの土地だったり全然川じゃないんですけど、栗栖園地を考えるとときに桃太郎神社の活用で相互ににぎわいをもたらしていくよという意味で書いています。なので、やんちゃ村というのが、またちょっと区長さんとも個別に御相談させていただきたいんですけど、この竹林エリアを今一生懸命皆さんが整備されていますね、河川敷だから。これを発展させていくに当たって、やんちゃ村という飛び地の拠点が、これは国交省さんと関係なくなってしまうんですけど、我々犬山市としてもこういった部分も大事にして、エリアマネジメントが目標ですから、こういったところも大事だということであれば、飛び地的にプロットしていくというのは非常に検討に値するなと今感じましたので、また御相談させていただければと思います。以上です。

岡田会長

丸山委員、よろしかったでしょうか。

丸山委員

ありがとうございます。

岡田会長

今回、最終ということでございますので、委員の皆さん、それぞれ感想でも結構ですし、一言ずつはいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

次、どなたか御意見、アドバイス等ありましたらお願いしたいというふうに思いますが。

じゃあ、梅村委員、よろしくお願いします。

梅村委員

梅村でございます。

先月、3月24日に弊社の取締役会を行いました。そのときに、各務原の取締役の方、犬山側の川端の、今、階段の上の辺り、階段から景観についての話が出まして、39ページにパース図が出ておりますが、現在ですと各務原のほうから見たときの景観というのは、この区域ができてまたちょっと変わってくるかと思うんですけど、景観的に配慮したいというような御意見が出されましたので、この場でちょっと1点、お話をさせていただきたいというのがございます。

もう一点は、犬山遊園駅の利用の件も先ほど出ておったんですが、木曽川鵜飼いで名古屋鉄道さんのプランとの間でかなり御議論いただいたりしておるわけですが、今回、いままでの桃太郎紅葉船という名称を改めまして、これは10日間ぐらいでやっていたのですが、今回、11月1日から秋の犬山周遊船ということで、今の木曽川鵜飼いの乗り場のところを起点にいたしまして桃太郎港のほうへ行くルートでの、川から犬山城を見るという流れで戻ってくるという流れを今回組み立てております。

電車でお越しいただくお客様、今まで前は城下町の人を船のほうへ引き込むということでの計画も、もちろん今は犬山城遊覧船でやっておるわけですが、電車でお見えになるお客さんに焦点を当てて遊覧船に乗っていただくような流れまでを回遊していただく流れというのをもう少し強化していきたいということで今考えておりますので。今後、遊園駅で降りられる方がたくさん見えれば、そこからまた城下町のほうへ向かわれる方や、川端や栗栖のほうへ歩かれる方、そういう機運が高まってくると思いますので、そんなようなところが私どものほうも同様の点で、それから有効な点でできるところはやっていきたいというふうに考えております。以上でございます。

岡田会長

ありがとうございます。

先ほど小池課長からの説明もありまして、今回、計画書の9ページに、新たに木曽川水系河川整備計画という国の示されている計画を見たときに、この

(2)のところですね。このため、景観法に基づき、景観行政団体が策定する景観計画と整合するようというように書かれておりまして、これを見て小池課長との事前打合せのときに、これはもうちょっと何か書かないかんのじゃないというお話をさせていただきました。35ページの冒頭に新たにその部分を入れていただくということで、今、準備を進めていただいていると思います。

今、梅村委員が御心配になっていたようなところが、犬山市も景観計画を持っています、特にこの木曽川景観ゾーンといいますと、建物の高さだとか、意匠だとか、それから色まで景観計画の中にうたわれておりますし、もう一つは各務原市との景観協議会という県をまたいでの協議会というのもあって、この中でもこの内田地区、それから栗栖地区、両方は景観形成重点地区に指定をされているということもありますので、やはりハードを考えるとときには、これは避けて通れないのではないかなという気がしています。その辺、今度申請される前にも整理をして、ぜひ記載のほうをよろしくお願ひしたいというふうに思います。

何かありますか。

事務局

ありがとうございました。梅村委員と岡田会長、ありがとうございます。

景観は非常に重要でして、繰り返しになりますが、景観計画も踏まえたハード整備というのを申請までに記載していきたいと思います。犬山らしい風景というのは絶対あると思ひまして、あまり派手な景観だと、ちょっと落ち着いた雰囲気、木曽川景観にそぐわないので、その辺りはちゃんと意匠だとか色とかを考えて配慮して進めてまいります。ありがとうございます。

あと、遊覧船を、電車で来て、そこで今の鵜飼い乗り場から遊覧船をどんどん活用していただくというのは非常にかわまちづくりにとって重要なコンテンツになり得るなと思いますので、お城の港から出るのも進めていきたいですけど、そちらも力を入れていただけると我々としても非常にありがたいので、引き続き連携させてください。ありがとうございました。

岡田会長

ほかに、他の委員さんからアドバイス等いただけますとありがたいですけれども。

じゃあ奥村委員、よろしくお願いします。

奥村委員

1つ疑問がありまして、回遊性をどんどん増やそうということで、栗栖地区と内田地区、特に川沿い、木曽川沿いのにぎわい創出を面的に考えてみえると思います。栗栖地区につきましては、県道整備等いろいろあります。これはどうしても、会議所のほうも微力ですが、毎年、県知事に対して直接要望させて

いただいていた。あと、中部地方整備局のほうへも、これは管轄外かも知れませんが、同じように栗栖地域の犬山栗栖線ですかね、そこは強く要望しています。

内田地域につきましては、先ほど小池課長のほうも犬山城下町プラス、その前には内田地区の木曽川沿いのかなりのにぎわいがあった。これは、私も子供の頃からそこは見ておりまして知っています。城下町と今のあんなような、あんなような人があそこより多かったです。それを取り戻そうということもあると思うのですけれども。この21ページに書いてあります、今回出たと思うんですよね。木曽川河畔空間の歩行者数という。この人数が867人で1,020人、150人ぐらいしか増えてないわけですね。一番下の名鉄さんの犬山遊園駅の乗降客数が49万から61万、パーセントでいえば名鉄さんの入り人数が21%ですかね。上の木曽川河畔空間の歩行者数、これは15%ぐらいだったんで、できれば同じぐらいの数字がいいかなと思ったりもしました。

ここの備考欄の木曽川河畔空間の歩行者数、この閑散期の週末平均歩行者数となっていますが、一番下の名鉄さんのほうは、閑散期も年間ですから一緒なんで、これはもともと閑散期の数字だけなのか、週末ですとかなりこの数字も違ってくるので。この辺の今修正ができるの、例えばもうちょっと最低でも20%、下の名鉄さんと同じぐらいにしたいなという考えがありますし。

あと、もう一つは動線ですね。今は犬山駅から毎週すごい方が城下町に向けて歩いてみえて、ちょっと町を通って帰られます。その方々が、犬山城が目的の方もかなり多いと思いますが、このにぎわいの今回の事業については、犬山遊園の乗降客を狙って、犬山城を下りて、そのまま帰ってくるのが狙いなのか、犬山駅から犬山城へ行かれて、その方を再度遊園から降りてもらふ、両方があると思いますけど、どちらがメインなのかと思ったりして。

ディズニーランドは装置産業というので、意味合いは違うかも知れませんが、ディズニーランドというのが一つがあって、それに向けて、その周りのいろんな周辺のものを使って人を呼ぼうと。それでいろんなパレードだったり、毎日のようにやっていますけど。その一つが城下町のいろんな店があって、核は犬山城だ。今回の考えも、犬山遊園駅から降りた人が犬山城を狙って見えて、いろんな飲食店もあるし、楽しいから行こうという。核は犬山城が双方から見えてありとあらゆる場、そういう手法で思いながら、ここの今まちづくりのいろんな整備のトイレから先の犬山城に向けてのいろんな御案内とかも、そういったものを整備したほうがいいかなと、分かりやすいとか、そういうふうに考えました。

岡田会長

事務局から、いいですか。

事務局

奥村員、ありがとうございます。県道の要望、本当に毎回ありがとうございます。

21ページの定量的目標というのは、まだちょっと絞り込みというか深掘りが足りていないという状況で申し訳ありません。

木曽川河畔空間の歩行者数については、都市再生整備計画という別の計画の中で目標値が既にありまして、そこからさらに13年まで伸ばしたときというので伸び率を単純計算してしまったんですが、おっしゃるとおり100人ちょっとしか伸びてないので、これじゃあ全然にぎわってないじゃないかという御指摘だと思います。もう一度、その辺の数字については、かなり控えめ過ぎますので、もう少し希望を持って数字の見直しをさせていただきます。

一方で、繰り返しになりますが、遊園駅の乗降者数、鵜飼もそうですが、については逆に野心的に市側が希望的観測で数字を上げてしまっておりまして、名鉄様とか木曽川観光様のお持ちのデータを基に数字をはじているわけではございませんので、こちらは逆にしっかりと精査をして、夢を見ながら数字は整えていく。ただ、いずれにしても、市側が出していく目標なので、最終的には市のほうで希望的な数字ということで御理解、御了解いただいた上で、市の責任の中で公表していくという形になるかなとは思っております。

あと、動線については、今おっしゃるとおりで、遊園駅からの乗降を増やしたいというのがありますが、一方で犬山駅のほうが激減すればいいというわけではないので、まずは全体として公共交通機関の利用というのは高めたいというのはいかがでしょうか。車で来られる方も多数いらっしゃいますが、どうしても道路渋滞、混雑の原因にもなりますので、公共交通を促していくというのが一つの方向性としてあると。全体として高めたいんですけど、バランスをよくしたいんですね。犬山駅ばかり来て過密になるよりは、両方からゲートインして、それぞれ別のほうに行かれていただくというのが非常にバランスよく周遊していただけるのかなというふうに思っておりますので、その辺りがうまいこと高まっていくといいのかなというふうに考えているところでございます。以上です。

岡田会長

ありがとうございました。

ほかの委員さん、何かありますか。

じゃあ板津さん、よろしくお願いします。

板津委員

名古屋鉄道のまちづくり推進部、板津と申します。よろしくお願いいたします。

先ほど梅村委員と奥村委員からもお話しいただきましたが、21ページの乗降客数の件。我々としても犬山遊園駅が、犬山駅から犬山城下町を回遊して、最終的に犬山遊園から帰っていただくとか、犬山遊園のほうに直接お越しいただいて周遊を楽しんでいただくとか、いろんな形で利用が増えるということは非常に歓迎しておりますし、我々としてもそこに、前回も申し上げましたが、PRとかそういったところの連携はさせていただきたいなというふうに思っております。

ただ、一方で、この数字というところに関しましては、犬山市さんも分かっていた上で記載いただいているのは重々承知しておりますけれども、ダイヤであるとか周辺状況、また平日の利用者数、住民の方、いろんな要素にかなり左右される数字でございますので、ここの目標値の設定の仕方につきましては今後御相談とは思っておりますけれども、単純に年間乗降客数というよりは、土・日のイベント時の利用者数とか、今、データもかなり細かく拾えるようになっておりますので、そういったところを含めて犬山遊園駅をうまく活用していただけるような形をつくっていただければというふうに思っておりますので、またこの点に関しては御相談させていただければと思います。

正直申し上げますと、現状値、令和5年から直近の数字を来る前に拾ってきたんですけれども、正直あまり伸びておりませんので、61万という数字が達成可能かどうかも含めて、その辺り、令和13年度に向けてどうしていくかというところは、定量的に数字をどう拾っていくとか、そういったところも含めて御相談させていただければというふうに思っております。

あと、1点、39ページのイメージパースのほうを拝見させていただいて、非常に夢のある、私もこういうものを見るのは好きですので、すごくすばらしいなというふうに感じておりますが、やはりこういったものを達成していくには、土・日とかイベント時に関しましてはソフト面の考え方もイベントだったりステージもあって非常にすばらしいなというふうに思うんですけれども、それ以外の日、イベントのないときに、こういったにぎわいがどうつくれるかというのは非常に重要だと思っておりますので、平日のコンテンツの部分、特に飲食店とか、あと、これもまた前回と同じ話になってしまいますが、情報発信の部分をしっかりやっていかないと、こういったにぎわいを常時つくっていくというのはなかなか難しい部分も正直あると思います。距離的な制約だったりとかもあると思いますので、そういったところをどうギャップを埋めていくかというところは非常に重要で、そのギャップをどう埋めていくかという意味では、体制図のところを書いてありましたが、民間事業者をどのように選定していくかというのは非常に重要ななというふうに思っています。

民間事業者Aというのが22ページのところに、少し出てきておりますけれど

も、ここは都市・地域再生等利用区域のスキームを利用して指定されるということであるんですけど、ここはまた今後つくり変えられるというお話もありましたので、ちょっと私個人的な意見になってしまいますけれども、民間事業者をどう選んでいくかというのも非常に重要だと思っておりますし、スケジュールとかを見ると、指定という、45ページですね。民間事業者を令和10年から検討されて、令和13年に指定されるというところですけども、この民間事業者をどう選んでいくのかというプロセスが正直見えにくいなと思っております。我々もディベロッパーでもありますので、こういったところにどう絡んでいくかというところを最終的に検討していく上で、このプロセスをもう少し明らかにしていただくというのも今回のこのパースを実現していく上では非常に重要なところなんじゃないかなというふうに思っておりますので、その部分も反映していただけるとありがたいなというふうに思っております。ありがとうございます。

岡田会長

具体的にどう進めるかという御提案だったと思いますが、事務局からいかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。乗降客数については、また御相談、よろしく願いいたします。

どうやって人をいざなうか非常に難しい問題だなと思っております。平日、特にそうですね、そういったところの誘導というのは大事だなと。そういう意味では、39ページの絵というのは、どちらかという川の中でのいろんなコンテンツとかの楽しみ方というのが中心で、あとは遊歩道で店を連坦させてというところで、にぎわいとか利便性ですね。もちろん、お店は地域の方も楽しんでいただけるようなお店もたくさんできるといいなと思っております。

あと1個、絶対的に必要なのは民地側のにぎわいといいますかね。川のほうだけいろいろあっても、結局魅力としては片手落ちなので、インディゴさんというすばらしいホテルもありますし、宿泊施設も複数あったり、飲食店もありますが、さらに民有地の利活用というのが進むといいなあというか、そこは必要だなと思っております。卵と鶏ではありませんが、河畔の整備を進めることで民地側が刺激を受けていただいて土地の利活用を深めて進めていただけることで、初めてこの河畔空間の活性化が実現すると思っておりますので、そういった意味では、土地の所有者さんであったりとか、いろんな方に働きかけながら、民有地側も含めたにぎわいづくりというのは進めていきたいなあと思っております。もちろん、地域の方の理解をいただきながらというのは大前提ですが、そういったふうには思っております。



その中で、民間事業者という、ミスターXみたいな感じで書いてあるんで、はっきり言ってまだ未定なのですけど、こちらについては、考え方として、例えば市が全て管理して、こちらの絵にありますようなテナントなんかを市が貸出ししてとかやると、これは自戒を込めて言うと、なかなかうまくいかないんですね。自由度が高くないし、どうしても我々は、規制とか、公平性とか、いろんな縛りの中で動かなければいけないという事情があります。ですので、これは民間の方、もちろん地域団体の方になるのか、それは分かりませんが、名のりを上げた方が適切に管理していただくというスキームが必要であろうということでまず落とし込んだと。選定のプロセスとかプログラムというのは、実はまだ青写真がない状態ですので、この計画が登録されていくにつれて具体的に動き出すという必要がありますので、またその辺りもしっかり構築して明らかにしてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

岡田会長

よろしいですか。

板津委員

ありがとうございます。

岡田会長

今の辺のところも踏まえて、阿部さんのほうから御助言いただけるとありがたいなあというふうに思います。

阿部副会長

すみません。今の民間のプロセス、全国の事例的には、恐らくPark-PFIとか、川のそばの空間を使って、そこを公募にかけていくみたいな事例が今は多いのかなと思います。あと、今、市のほうで飲食店とかですか、つくるような話になっていますけれども、そのデザインも含めてとなると、コンペなどでやっていくと、割と皆さん、いい内容になるかな。それをかけるにしても、前段の地域での合意形成とかサウンディングみたいなところは必要になると思いますので、出来上がりを見越してスケジューリングしていくことが重要かなと思いました。

あと、その前の回遊性の部分で、もうちょっと言おうと思って、36ページのところに内田地区全体の図面があると思うんですけども、ここで城の隣の点線で囲ってある別事業となっているところと、あと犬山遊園駅のほうから、今、全然何も書いてないんですけども、この川側へのアクセスみたいなところも恐らく回遊性を目指していくという部分では重要になると思いますので、そういったところもどう進めていくとか、図面に落としていくとか、そういった部分が必要かなと思いました。

あとは、すみません、ちょっと戻るんですけど、5ページのところに浸水リ

スクの話を書いていたいていて、これ自体は、さっき栗栖のほうでも大水がみたいなのがありましたけれども、計画上はここの対応はあまり書いてないと思うんですけど、今、防災との連携みたいなのがかわまちではテーマになっているところもいろいろあるんですが、川を平常時利用していただくことで川を知っていただくみたいな、そういった観点のところも結構ありまして、自然環境のほうは追加で書いていただいたと。自然環境の意識を醸成していくみたいな要望があったかと思いますけれども、そういった川を知っていただくみたいなもの、かわまちをきっかけで、そういう効果があるみたいなのがかどこかに入らないかなと思っています。あまり図面とかとずれるとよくないかもしれないんですけど、そういう効果もあるかなと思いました。

岡田会長

ありがとうございました。事務局からどうぞ。

事務局

ありがとうございます。P a r k - P F I とか、確かにやり方、進め方で多分いろいろあると思うんですけど、市が一から十まで全部仕切っちゃうとうまくいかないものですから、民間活力の導入、活用というのは本当に必要なので、ありがとうございます。サウンディングとか、いろいろ段取りも多分必要になってくるので、その辺り、適切に進めてまいります。

あと、動線についてはまさに御指摘のとおりで、36ページの郷瀬川の部分というのは、城前の公園から公園坂という坂を下って、この郷瀬川沿いを通して、ようやく川に来られるという状態なんですね。皆様御存じかもしれませんが、郷瀬川沿いというのは非常に暗くて、なかなか行ってみたいな、歩きたいなという空間になっていない部分がございます。これはまた、郷瀬川ですと県河川になるので愛知県様との御相談とか、あとハード整備だと、また庁内で、今、都市整備部とのいろんな協議、相談も必要になってきますが、何とかこの動線をちゃんとつなげることで、河畔のほうに誘導できるような仕掛けですね。それは、一つはサインだったりも必要でしょうし、照明なんかも必要だと思います。防犯とか地域安全という観点からも、もう少し明るいいいのかなというように、観光資源も含めて考えると、そういったような思いもありますので、またこれは観光側からの投げかけになるかなとは思いますが、動線の魅力づくりというのも考えてまいります。

あと、防災をテーマにしているということも非常に大事な視点だなと思うながら、なかなかその辺りは書き切れていませんが、前回、丸山委員の御意見で危機管理なんかも大事だよということで、そういったところを少し強化しています。今いただいたコメントの中で、平常利用していただくことで川をよく知っていただく、そういうのはひいては災害時とかのリスク回避とか、危機

察知とか危機予測につながるというふうに理解しまして、なるほどと思いました。

そういう意味では、どんどん川に地域の方に来ていただいたり、それは栗栖も内田もそうですね。そこで活動したりする機会をたくさんつくと。今日はちょっと水が増えてきているからやめようかなとか、この天気だとだんだんこれは水位が上昇するなというのが皆さんも感覚的にもっと実感していただけるようになるかなと思いますので、そういったどんどん川に近づいて使っていただくことで、いざというときに適切に動けるような、そんな仕組みになっていけるといいなと思いますので、その辺、表現を工夫してみますので、ありがとうございます。

岡田会長

先日、たまたま坂祝の民間の方とお話することがあるんですが、あそこは御存じのようにロマンチック街道という、本当に立派な堤防ができてしまって、逆に地元の人が川を見ることがないというようなことで。今まさにこういうお話の中で、子供たちを川に引きずり込みましょう、それは変な意味じゃなくて、ボートを使って川から岸を見ましょうというイベントだとか。先ほどトレイルランの話があったんですけど、山と、それから河原を走るようなランコースをつくってみましょうなんていうことを言ってみえた方が見えます。実験的に既にやって見えるんで、そういういわゆる親水も必要なことなのかなというのはちょっと今お話を聞いて感じたところです。

じゃあ、ほかの委員。

松田委員、先にどうぞ。

松田委員

観光協会の松田です。よろしくお願いいたします。

まず、計画を全体見せていただいた感想といいますか、そちらからになりますけど、当初、なぜ観光サイドでこの計画をつくるのかなというのが疑問視もあったんですが、ただ、内容を見てみますと、しっかりと市の観光戦略、その中での重点事業をやっていく本筋をこの計画の中にも対応されているかなと思いました。特に、どっちかというと都市計画サイドでつくると、どうしてもハードが中心になってきますので、人づくりというような観点が、厳かにといいますか、弱いかなというような観点もあるかとは思いますが、本計画の素案の前なんですけど、ここにはしっかりと多様な主体との連携、そして人づくり、そしてそれにはまちづくりといった犬山市が目指すべき姿をここに体现しているかなというふうに思います。

整備がどんな影響があるかということも、26ページのときに御説明いただいたんですが、こういう成果の中で整備によって得られるもの、それはにぎわい

をつくることであって、そしてそのにぎわいによって人がたくさん来る、これは観光的な視点也大いに関係あるのですが、交流人口が増える、そしてまた定住人口も増えるというところと、最終的には消費が生まれる、観光消費なり、ほかの消費も生まれる。消費が生まれることによって、市の個人なり法人の市民税も多くなっていくというのが見られますので、最終的に犬山市のメリットにつながっている計画であると最終的には思っており、そのストーリーを書いているだけというふうには評価はいいと思いますか、大げさですけど、感じました。細部の調整もありますけど、もう一踏ん張りお願いしたいと思います。

1点、前回の会議でも申しましたが、この計画づくりに当たっては、最初、第1期の犬山市のいいね！いぬやま総合戦略、これが大きな位置づけであるかなというふうにも思っておりまして、その中には観光戦略をつくっていくということも入れ込んでおります。また、河川空間を活性化していくということも、もう既にその段階で入れ込んでいるのが、徐々に今回の計画づくりにも生きているなと思います。

この1月にパブリックコメントを総合戦略でやっていますので、それを見させていただくと、重点事業にまさしく観光を戦略的にやっていくんだと、観光戦略を推進していくということと、あと河川空間の活性化、整備も含めてやっていくぞということが大きく重点事業に書いてありますので、犬山市が、企画サイドも、都市整備サイドも、オール犬山でやっていく計画だと思いますので、この総合戦略との位置づけも何らかあるとじっくりいくんじゃないかなというふうに思います。

最後に、細かなこと部分なんですけど、37ページで河畔の遊歩道の整備、この説明の中に、阿部委員が御提案されているかと思いますが、作戦会議のようなエリア、場所、スペース、箱、こういったものがあると市民的な利用というものは大いに広がっていくと思いますので、ぜひともこういったことも踏まえてブラッシュアップしていただければと思います。以上です。

岡田会長

他計画との整合とか、その辺のことだと思いますが。

事務局

松田委員、ありがとうございます。

整備は観光発信ですけど、これから当然、具体的な工事とかになりますと、都市整備部との連携というのは欠かせませんので、オール犬山で進めていきたいなと思っております。御意見、ありがとうございます。

それで、いいね！いぬやま総合戦略という市の計画の中でも非常に重要な計画がありまして、そちらとの連動という意味では、総合戦略へかわまちの記載も重要ですので、今後またそういった働きかけもしてまいりますし、あと、こ

の他計画の整合という項目の中で、いいね！いぬやまの記述が抜け落ちているもんですから、その辺りも記載させていただきたいなと思っております。ありがとうございます。

あと、河畔の遊歩道の中に作戦会議のスペースというのは、今御紹介いただいたことは阿部委員からの御助言もありまして、そういう拠点ができると、今、カタリーヴァの皆さんが本当に一生懸命かわまちを進めていただいていますので、何とかしてそういうものをつくりたいなと思っていきますので、そういった記述もまたしっかり充実させていきたいと思います。ありがとうございました。

岡田副会長

ありがとうございました。

あと、安藤委員、日比野委員、御発言はありますでしょうか。お願いします。日比野委員、よろしくお願いします。

日比野委員

朝市組合、日比野でございます。

39ページのパース絵を見ると、ここを絶対こうしてほしいなど。こちらは一年中、遊歩道を使わせてもらっています。国からも許可をいただいて、年間を通じての春、夏、秋、冬。今、閑散期でなくて、今が一番物が無い時期なんですけれども、これから右肩上がりになっていって、あそこで商いもさせていただきます。これも朝市だけではなくて、地元の内田町内の方々も協力していただいて一緒に場所をにぎわせてもらいますので、ありがたいと思います。この図の中でも、こっちの庭園の絵だとか、このテーブル、バーカウンター、こんなものがあったら日本一だと思いますので、そこで何ができるかということを皆さんと知恵を出し合っていきたいと思います。

あと、もう一点、うれしいことがございまして、たまたま能登半島で震災があって、有名な輪島朝市がありましたけど、今は実際中止されていますけれども、出張輪島朝市を5月18日に犬山に来ていただいて、そこで朝市のコラボレーションをします。ですので、それを朝やった後、内田の防災公園に移動して、一日その会場をPRしていただいてというように、お互い広報戦略としてやっていきますので、ぜひまたお時間がありましたら、5月18日に木曽川沿線で頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

岡田会長

ありがとうございました。

安藤委員も御発言をお願いできますか。

安藤委員

今お話を、いろいろうれしいというか楽しいお話をいっぱい聞かせていただ

いたんですけれども、何かいまいち仮の絵という感じがして実感が湧かないんです。

それと、犬山遊園を利用する乗降客は、犬山駅とは別の目的で訪れてもらったほうが人数は増えると思うんです、今の遊覧船にしろ、内田町にしろ。それから、私、どうしても言いたいのは遊歩道ですね。栗栖との連絡です。飛び地になっては人が流れないですよ。人が流れて人が集まってくるように私は思うんです。その途中にある寂光院、継鹿尾の観音さん、これも駅から歩いて行ければ、もっと年間を通して人が訪れると思うんです。栗栖もそうです。お城から栗栖まで約3キロですよ。

丸山委員

もっとある。3.6キロぐらい。

安藤委員

そのぐらいでも歩くにはちょうどいいような距離だと思うんです。今、歩かれる人が結構見えますから、観光とは別にそういう人たちに集まっていれば、遊園は遊園の駅としての魅力も増えるんじゃないかと思います。何も城下町とくっつける必要はないんじゃないかと。そんなふうに私は思ってた今聞いていました。

事務局

安藤委員、本当にありがとうございます。

まだ机上の段階なんです。39ページのイメージ図もまだあくまでイメージで、これが完全に実現するかというのはまだまだ分かりません。国土交通省さん、木曾川上流事務所さんが今回熱意を持って我々の計画に寄り添っていただいていますので本当にありがたいところですが、まだまだこれが確定したものではないので、実現に向けて頑張っていくぞというところをお示しできるところにとどまります。

今、すごくなるほどと思ったコメントをいただいたんですけど、犬山駅から遊園に向けての回遊性というのは我々としては観光サイドとしても持ち続けたいので、連動というのは、すみません、どうしても重要だと思っていますが、遊園駅で降りたら遊園駅でしか味わえない楽しみというのは、確かに犬山駅で降りる人にはそれはないものが絶対あるので、すごい大事だなと今思いました。それは、もちろん鵜飼いもそうですし、これから実施していかれる遊覧船も、遊園駅から乗った場合の航路みたいなものもあるはずですので、そういった楽しみ方というのはなるほどと思いました。

加えて、遊園駅で降りて、そこしかない楽しみというと、北へ向かう、栗栖のほうへ向かってすばらしい自然を満喫していただいて帰るという。それは城を中心とした文化財を楽しむ犬山観光だけじゃなくて、自然を楽しむ犬山観光

という、なかなか今弱いんですけど、そこをしっかりと捉えていくというのは非常に重要な御指摘だなと思いましたので。書き込みについては、どういうふうに書けるかというのはまた工夫をさせていただきますが、本当にありがとうございました。

岡田会長

ありがとうございました。委員の皆さん、ありがとうございました。  
丸山委員。

丸山委員

1つ訂正させてください。安藤さん、僕、3.6キロぐらいあると言ってたけど、我が家まで3.6キロなんで、多分園地までは3キロぐらいだと思う。失礼しました。

岡田会長

ありがとうございました。

安藤委員

2キロと言っていたんで、大体。

岡田会長

近いところですから、歩いて行ける距離ですねということですね。  
今回の計画策定にもいろいろアドバイスをいただき、今後、実施に向けて本当に頼りにしている木曽川上流事務所の井川さんから、最後に御意見というか御感想などをいただけたらと思います。

井川オブザーバー

木曽川上流の井川です。ありがとうございます。  
このかわまちづくり計画書は、犬山市さんと打合せさせていただいて、また今日見せていただいて、よりパースとか具体的な数値目標が出てきている、より見やすく計画がなされてきているなというふうに印象を受けております。  
あと、木曽川上流事務所では、犬山市さんのかわまち以外にも複数、実は今動いておりまして、そのうちの一つは木曽川中流域ということで、上流は美濃加茂市さん、可児市さんで、下流側へ行きますと稲沢市さん、羽島市さんということで、中流域で12市町を取り囲んだ形の中で木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり協議会というものを2月25日に立ち上げたということで、各首長さんがヘッドで入っている協議会になります。その12市町というところで、自転車での河川敷とか堤防の上をつなげていこうということを目的としておりまして、これまで一宮市さんとか、江南市さんとか、ある程度一定のサイクリングロードが河川敷道路に整備されていることとか、あと、最近は自転車に乗っている方が非常に多いということで、そういった機運が非常に高まってきているということ。あと、もともと木曽川流域に対してポテンシャルは非常に

高いというようなことから、それがちょうどこういうタイミングということで協議会を立ち上げたということになっております。

今後、各自治体の賛同を得ましてサイクリングロード整備を延伸する場所とか、サイン計画とかモニュメント、駐輪場の整備とか、そういったものをまた、この犬山市さんと同時、6月の申請に向けて動いているということになっております。これが登録されますと、同じ5か年ということで、先ほどの整備とか順次やっていくということになりますので、市単体でなくて、市と市をつなげていく流域として動くような形になりますので、これでまた整備されますと、例えば一宮市から犬山市さんのほうに行くとか、そういう全体の循環的なものができて、また自転車もある程度仕掛ける可能性もあるかなということで期待して今進めているところでございます。以上です。

岡田会長

ありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。

それでは、今後のパブリックコメントを含めて、今後の検討について報告いただけますか。説明いただけますでしょうか。

事務局

ありがとうございます。

(資料説明)

岡田会長

ありがとうございました。

ここで言い足りなかった委員の皆さんも、パブリックコメントを出す権利はあるんですね。よろしくお願いします。

それでは、よろしいでしょうか。

よろしいでしょうか。

今回最終ということで、私の拙い取り回しで皆さんに御協力いただいて、何とかやることができました。ありがとうございました。

進行を事務局へお返しする前に、私からお願いが1個ありまして、1つは、冒頭、新原部長からもお話があったように、今度は小池課長が新しく後任の部長になられるということですので、それに対して一言御挨拶をいただくとともに、それから今日は陰に隠れていましたけど、次、実際に来ていただける伊藤課長からも顔見せで御挨拶がいただければなあというふうに思っておりますが、急な振りで申し訳ございませんが、短くで結構でございます。

事務局

ありがとうございます。

4月からまた人事異動がありますので、体制が変わります。私は引き続き、



このかわまちづくり計画に関わることができることになりましたので、非常に安堵とともに責任感を持ってしっかり進めていきたいと思います。関わり方はこれまでと皆さん変わりませんので、どんどん意見交換とかコラボレーションをさせていただければと思います。しっかりした体制で進めてまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

事務局

皆さん初めまして。今は防災交通課で課長をしております伊藤といいます。4月から観光課長として、小池課長の後をしっかり引き継いでいきたいと思っておりますので。

観光課というのは初めて経験する部署になります。大変不慣れなところもあるかと思いますが、また、皆さんと一緒にこのかわまちづくり、しっかり引き継いでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

岡田会長

ありがとうございました。御無理を申しました。

では、最後、進行を事務局へお返ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局

岡田会長、ありがとうございました。

皆様におかれましても、これまで非常に活発な議論、御助言、御提案いただきまして誠にありがとうございました。

これで全3回の協議会を終了といたします。いただいた意見、御助言を基に、繰り返しですが、パブリックコメントを実施して、さらには木曽川上流事務所様にも御相談をさせていただきながら、いよいよかわまちづくり計画を完成させ、6月申請、8月登録ということでしっかりと進めてまいります。

当たり前ですけど、計画を登録してスタートになると思っていますので、これを終わりで、計画というのはややもするとつくって終わりになってしまいますけど、必ずこれをどんな形でも実現していくというのは、使命感と決意を持って皆さんにお伝えさせていただきますので、8月スタートとなります。協議会自体の開催は、また改めてということになりますので、しばらくありませんが、いろいろな機会や場で進捗具合については御報告させていただく、共有させていただく機会を設けたいと思っておりますので、引き続きの御支援と御助言をよろしくお願いいたします。個別にお話に来ていただいても全く構いませんので、よろしくお願いいたします。

看板倒れにならないように、日本一美しい河畔をつくるという強い決意の下、頑張ってまいりますので、引き続きのお力添え、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして第3回犬山市かわまちづくり推進協議会を閉じさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。